中２　国語　一―一	平成二十八年度 愛媛県学力診断調査 三 1・2	名前　　組　　番

三　古典の学習をした白川さんは、「雨上がり」というテーマで、お薦めの話を紹介することにしました。次は、【紹介文】と【白川さんが選んだ話】です。

【紹介文】

「雨上がり」と聞いて、多くの人が思い浮かべるのは、大空を彩る虹ではないでしょうか。雨に洗われた空から、七色の虹が地上に向かって大地を包み込むように伸びる姿は、思わず息をのみます。また、遠くにあるはずの山々が、雨の恵みを受けて緑を深くし、手に届くほど近くに見えることもあります。このように、雨上がりには心奪われる光景に出会うことができます。

しかし、身近な思わぬところにも、雨上がりだからこそ見られる光景があります。それを紹介しているのが、『枕草子』第一三〇段です。この中では、庭の植え込みの葉が雨にぬれ、その滴が今にもこぼれそうになっている様子や軒の上にかかっていたくもの巣に露がついている様子が取り上げられています。露を（　①　）にたとえるだけではなく、くもの糸で貫き通しているようだと、庭の一角に焦点を当て、豊かな表現で描写しています。多くの人は見過ごしてしまう情景かもしれませんし、仮に目に止まったとしても、心が動かないかもしれません。そういう情景に趣を感じる作者の（　②　）は、現代の私たちにも驚きと感動を与えてくれます。

【白川さんが選んだ話】

〔古文〕

九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の、今朝はやみて、朝日いとけざやかにさし出でたるに、※前栽の露こぼるばかり濡れかかりたるも、いとをかし。※透垣の※羅文、軒のうへに、かいたるくもの巣の、こぼれ残りたるに、雨のかかりたるが、白き玉をつらぬきたるやうなるこそ、いみじうあはれにをかしけれ。少し日たけぬれば、萩などのいと重げなるに、露の落つるに枝のうち動きて、人も手触れぬに、ふとかみざまへ上がりたるも、いみじうをかし。

（『枕草子』　第一三〇段より）

※前栽…庭先に植えた草木。「せざい」とも読む。
※透垣…板や竹で間を透かして作ったかきね。「すいがき」とも読む。
※羅文…透垣の上部を飾るために、細い竹や木をひし形に交差するように組んだもの。

〔現代語訳〕

九月ごろ、一晩中降り続いた雨が、今朝はやんで、朝日がとても際立って輝きだしたときに、庭の植え込みの露がこぼれ落ちるほど濡れかかっているのも、とても趣があります。かきねの上のかざりや軒の上などにくもの巣が破れて残っているところに、雨が降りかかっていて、白い玉を糸で貫き通しているように見えるのが、とても風情があって趣深いのです。少し日が高くなってくると、露がたくさん降りてとても重そうな萩の枝が、だれかが触ったわけでもないのに、露が落ちた拍子にさっと上の方へ上がります。このようなちょっとした動きも、たいそうおもしろいものです。

1　【白川さんが選んだ話】の〔古文〕の中の〰〰線部「いみじう」を現代仮名づかいに直して、すべて**ひらがな**で書きなさい。

2　【紹介文】の（　①　）、（　②　）に入る言葉として最も適切なものを、（　①　）は、【白川さんが選んだ話】の〔現代語訳〕の中から**三字**で抜き出して書き、（　②　）は、次の**ア**から**エ**までの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア　強情さ　　**イ**　繊細さ　　**ウ**　大胆さ　　**エ**　誠実さ

中２　国語　一―二

平成二十六年度 全国学力・学習状況調査 8 ―四

名前　　組　　番

8

四　林さんは、【読んでいた本の一部】の――線部「英気を養う」の意味が分からなかったので、国語辞典で調べました。あとの【国語辞典】に載っている「英気」と「養う」を説明している言葉をそれぞれ使って、「英気を養う」の意味を書きなさい。ただし、「英気」については①と②のどちらかの説明、「養う」については①から③のいずれかの説明を選び、その言葉を使いなさい。

【読んでいた本の一部】

十分に休養を取ったので、明日の英気を養うことができた。

【国語辞典】

えいき【英気】〈名〉　①すぐれた才気。
　　②活動する気力。

やしな・う【養う】〈他動・五段〉　①衣食など、生活の面倒をみる。
　　②餌を与えて動物を飼う。
　　③体力・知力などを少しずつ作り上げる。